

青森⇄ブラジル

アートの現場から

ACAC通信

2016年秋のアーに参加したアーティスト・イン・レジト、サンドラ・シントデンス(AIR)に参さんが主宰する美術団加したレナター・クル体で、サンパウロ在住スさん、2017年夏のアーティストの勉強のAIRに参加したア会や展覧会に合わせてアルバーノ・アフォンさん、2018年にキで40人以上のアーティストを世界各地から受ユレーター・イン・レジデンスに参加したジョズエ・マトスさん。この3人は全員ブラジル人ですが、偶然ではありません。ブラジルのサンパウロにある美術団体「アトリエ・フィタルガ」(以下フィタルガ)の推薦で国際芸術センター青森(ACAC)に滞在したアーティスト達です。

ACACでは、2016年度から海外のAIRを行う団体との交流プログラムを行っています。フィタルガはアルバーノ・アフォンさんと、ACACで2015年度のAIR

約100年前に建てられた日本家屋を見学に行く機会もあったそうです。逆の位置にあるブラジル。私達も普段の生活ではあまり馴染みがありませんし、ブラジル

プログラムに関係のあった日本人アーティストはこれまで2回行っています。2017年度は、鎌田友介さんを派遣しました。2018年度は、2019年2月末から3月末にかけて、船井美

ACACからの派遣はこれまで2回行つた。船井さんは近年、美術館で行われる教育活動に関心をもち、2017年に開催したACACの展覧会でも、家族連れが滞在しやすい前より、戦前から戦い仕組みを考えたり、シンポジウムやワークショップを行うなど美術館全体で行う教育活動を展開しました。ブラジルでも様々な美術館関係者を訪ね調査を行いました。日本とは地球上で真

は、過去にACACのポツンと残されている



ブラジルのジャングルの中に残された約100年前の木造日本家屋 (写真提供: 鎌田友介)

いかとも思います。

*

鎌田さんと船井さんのブラジル滞在の様子はブログでご覧いただけます。ACACのウェブサイトを<http://www.acac-aomori.jp/>から「acac blog」↓「海外派遣事業」をクリックしてください。

(青森公立大学国際芸術センター青森主任学芸員 金子由紀子)

※第1金曜日掲載